＜総括的なご意見＞

■教育委員会へのアドバイス

藤沢市教育振興基本計画を策定する際に、私も委員の一人として大変な議論を繰り返し、市の教育プランを作りました。それをみんなで運営していくということができる教育委員会であること、それに私も関わったことを誇りに思っています。

近年、文部科学省の行政も地方分権化ということで、学習指導要領も以前は法的な拘束力の中から出てはいけないというニュアンスがありましたが、今は最低基準だとされています。それぞれの自治体の実情に応じた教育政策を作るべきだ、という考えに私も同感です。

また、藤沢市は文化的なイメージが強いです。先日も教育委員さんがお話しされていましたが、教育文化振興に関して藤沢市は力を入れていると、まさにその通りです。

藤沢市が自分たちのまちの次世代に自分たちの知恵を伝えていくということで、このような教育振興基本計画を策定し、それをまたこういうかたちでオープンに議論し合うということをうれしく思っています。是非こういうかたちでみんなが議論していく、オープンにしていく、説明していく、もっと言うと市民に訴えていくことを進めていってほしいと思います。

今、新聞では、教育委員会の機能不全ということが言われていますが、私は、一般行政から独立する中で、教育文化事業に関しては教育委員の方々が見識を持って立案し、それをみんなの知恵で市民全体が支えていくことが必要であると思います。学校はみんなが支えるもの、そして次の世代を育成するものと考えます。そういう太い流れが藤沢市の中にはしっかりと根付いているという実感があります。

＜高橋勝委員長＞

藤沢市の取り組みを見て、教師や学校を支援していくという姿勢が明確でとても大事だと思いました。今、いじめ、自殺事件などをはじめとして学校や教師は、また教育委員会は何をしているのだという不信感のようなものが高まっていると思います。そういうものに乗じて、教師が問題を起こすという不信感に基づいた政策とか、いかに問題のある教師を発見するかというような対策がとられがちですが、そういう学校や教師を懲罰するような施策ではなく、基本的に学校や教師の可能性を信頼ながら、それをサポートしていく姿勢を示している施策であると感じました。

しかし、教師や学校に任せるだけでは今後うまく機能しないだろうと感じていますし、ただ施策を遂行するだけではなく、保護者や住民の方からの不信感や批判ということに対して、双方向のコミュニケーションというものをしっかりと確保していくことが大事だと思います。

＜新井秀明副委員長＞

最近の保護者の方々については、PTA に参加する人が少なくなってきています。また、子供会や活動できる団体についても、ここ１，２年かなり減少してきています。自治会も新しいマンションなどでは作らないと決めているところも多くあり、以前の藤沢市の地域の方々はとても協力的でしたが、自分たち世代の大人たちが、自分たちだけが良ければよいという考え方になってきているのを感じています。そうした中で、学校教育や社会教育をしていくのはご苦労があり、大変であろうと感じています。ただ、先生方も私たちPTA に対して、理解が少ない部分があると思うことが往々にしてあります。保護者の側としては、もう少し保護者と先生の連携というところに対して理解を求めているところです。

しかしながら、今まで常識的に地域にかかわって育てられてきた子どもたちとの間に、考え方に関しても、常識という点に関しても、ギャップが広がってきていると感じております。そういうところを埋めていくことができる活動が何かないのかなと、そういうところに着眼した事業を教育委員会で進めていただきたいと思っています。

＜岩野妙子委員＞

今、新聞等では、いじめの問題や青少年の非行の問題が取り上げられています。世の中が変わったこともあると思いますが、原因としては、親子関係や学校での友達関係から始まっていると思います。親子関係に関しては、まさに私たちの世代が子どもたちのためにいったい何をしているのかということを日々反省しているところです。

子どもたちとの対話が少ないとか、不登校の子どもたちが出て困惑する問題も、親子関係がベースではないかと思います。子どもたちや地域を良くするには親子関係から始まり、そこから家族的に、またはコミュニティ的に友人ができたり、先輩後輩の関係ができたりすると思います。保護者に対して、まずはお子さんと仲良くしてください、お子さんとコミュニケーションを取ってくださいということを、学校や教育委員会がもっと声を大にしてもいいのではないかと思います。

保護者としては、先生も地域の情報を積極的に吸収してもらいたいと思います。地域の発信している情報を先生も学習し習得して、私たちと一緒になり、子どもたちに対してフォローし、叱るべきところで叱ることができる大人をどんどん増やしていただきたい。先生が叱ることができなければ、地域のおやじが代わりに叱ります。そういうところで連携を図ることができればと思います。

いじめ問題は無くならないかもしれませんが、藤沢市に関しては対策が進んでいると思います。隠さず、常にアンテナを張ってほしいと思います。大事なのは親子の連携と地域の協力であり、その結果、教育は良くなると思います。近所のおじいちゃん、おばあちゃん、おやじたち、お母さんたちが一体となって子どもたちの教育環境をつくって行ければと考えています。

また、家庭の中で親の姿勢を見るような子どもに育ってほしいし、親も子どもを見てもらいたいとも思っています。

教育委員会には、親子関係をはぐくむような施策に取り組んでほしいと思います。

＜北橋節男委員＞